

株主の皆様へ／トップインタビュー »

「攻めの経営」に舵を切り、
厳しい環境下で、大幅増益を果たしました。

特集 »

「強い成長」のために

—情報機器事業の事業領域を拡大・深耕—



株主の皆様と描く、コニカミノルタの軌跡

MILESTONE

マイルストーン：一歩一歩の取り組みを大きな道しるべに



KONICA MINOLTA

株主通信

2010年秋号

株主の皆様へ	2
トップインタビュー	3
特集	6
事業概況	8
CSR（企業の社会的責任）の取り組み	10
2010年度のトピックス（4月～9月）	11
財務ハイライト	12
会社概要	14
株式の状況	15
MILESTONE PLAZA	16

コニカミノルタホールディングス株式会社
証券コード：4902

株主の皆様へ



2
株主通信
2010年
秋号

株主の皆様におかれましては、ますますご清祥のこととお慶び申しあげます。

当社の2011年3月期第2四半期連結累計期間(2010年4月～9月)の概況をご報告いたします。

当社の『経営方針<09-10>』では、直面する様々な環境の激変を自らのポジションを高めるチャンスと捉え、より新しい流れを創り出し成長に繋げる諸施策を進めており、2年目の今年度は強い成長の実現に向け「攻めの経営」へ舵を切っております。

この上半期においては、円高が一層進行する環境下においても主力製品が好調だった情報機器事業では増収増益を、顧客の生産調整の影響を受けたオプト事業でも増益をそれぞれ達成するなど、着実に成果を収めつつあります。

その結果、連結業績も売上高こそほぼ前年同期並みの3,918億円にとどまったものの、営業利益は前年同期比2.5倍の226億円、四半期純利益は同2.4倍の86億円と大幅な増益

「攻めの経営」に舵を切り、 厳しい環境下で、大幅増益を果たしました。

となりました。

世界景気の先行きは不透明で、関連市場の最終需要の動向、為替市場の先行きなども依然、予断を許さない状況が予想されます。しかし、今後も競争力の高い高付加価値製品の一層の販売拡大などにより、力強い成長の実現に向けグループ一丸となって邁進します。

なお、株主の皆様への配当につきましては、当初の予定どおり年間配当として1株あたり15円を予定しています。

株主の皆様におかれましては、今後とも一層のご支援、ご鞭撻を賜りますようお願い申しあげます。

2010年11月

コニカミノルタホールディングス株式会社

代表執行役社長 松崎 正年

トップインタビュー

Q

2010年度上半期(2010年4月～9月)の事業の状況について教えてください。

A

主力の情報機器事業を中心に、事業全般において、収益は着実に向上しています。

事業部門別では、情報機器事業は、オフィス領域向けの主力機種「bizhub(ビズハブ)」シリーズのカラー機及びモノクロ機が、日米欧の主要国のみならず、新興国市場でも販売が好調に推移しました。これは、bizhubが導入コスト、ランニングコストを合わせたお客様のトータルコスト削減に貢献できることを積極的に訴求したことや、新興国向け専用モデルを投入したことなどが奏功したためです。その結果、販売台数は前年同期比25%増と大幅に伸長いたしました。

一方で、上半期は対USドル、対ユーロとも大幅に進んだ円高による影響を受けたため、売上高は前年同期並みにとどまりました。

しかしながら、高付加価値かつコスト競争力の高い新製品の投入により、採算性の高い製品の売上比率が高まったことで、営業利益は前年同期から大幅に増加し、195億円となりました。また、当初計画に対しても超過達成することができました。

一方、オプト事業は、第1四半期までは順調な販売が続いていましたが、第2四半期には当社製品が使用される液晶TVやAV機器、パソ

コンなどの最終製品で生産調整が行われたことにより、売上高は前年同期比で伸び悩みました。

しかし、当社の強みである薄膜、超広幅のTACフィルム(液晶偏光板用保護フィルム)や高記録密度のガラス製ハードディスク基板など高付加価値製品の販売に注力し、同時に生産効率化などの努力を重ねたことで収益改善が進み、営業利益は前年同期比18億円増の79億円となりました。

Q

『経営方針<09-10>』の進捗状況と、今後の取り組みについて
教えてください。

A

筋肉質な企業体質を維持したまま、「攻めの経営」へと舵取りを
進めています。

4

株主通信
2010年
秋号



2年計画の『経営方針<09-10>』は、初年度の2009年度にスリム化と選択・集中の早期断行を行い、その結果、厳しい環境下でも着実に利益創出が可能な筋肉質な企業体質へと変革しました。

仕上げの年となる2010年度は、「既存事業

の売上伸長」「アジア市場での本格展開」「業務拡大・新規事業展開の加速」「業務の質の向上」の4つを基本方針とし、2009年度の成果である強い企業体質を維持した上で、更に「攻めの経営」へシフトすることで、「成長軌道への転換」の実現を目指しています。上半期は、当初計画を上回る実績をあげており、下半期も情報機器事業を中心に収益性を一層強化することで、更なる力強い成長を目指します。

下半期のテーマである情報機器事業の収益性強化策はまず、オフィス領域では、上半期までに拡充させた競争力の高い商品ラインアップにより、更なる販売拡大を目指します。次に、当社が長年構築してきた強固な顧客接点を活かし、新たな営業手法によるアプローチを推進します。これらにより、新たな事業機会の拡大、及び事業規模の拡大を目指します。

更に、今後大きな成長を見込んでいるプロ

ダクションプリント分野では、新たに立ち上げた新ブランド「bizhub PRESS(бизハブ プレス)」を着実に展開させていきたいと考えています。このブランドで、商業印刷市場を中心に、デジタル印刷分野での事業拡大を一層加速させます。

『経営方針<09-10>』は2010年度で終了しますが、社内では既に次の3カ年計画を策定中です。当社はこれまで成長が見込まれる事業領域や市場に経営資源を集中して事業拡大を図り、その中でトップポジションを目指す「ジャンルトップ戦略」を推進してきました。新たな中期計画では商品だけでなく、販売方法や地域など、更にジャンルトップ領域を精鋭化することによって「力強く成長し続ける企業」を目指します。

Q

事業面の施策以外で『経営方針<09-10>』の目標達成に向けて取り組んでいることを教えてください。

A

グループ社員一丸となって、効率的かつ創造的に能力を発揮できる仕組み作りを進めています。

私は昨年の社長就任時に、私自身のビジョンとして「足腰のしっかりした力強く成長を続ける会社」、そして「世の中に支持され必要とされる会社」となることを掲げました。

このビジョン実現のステップとして、『経営方針<09-10>』があるわけですが、この方針が目標とする事業収益を達成するためには、企業の体質改革、風土改革なども同時にい、的確な人材マネジメントを進めていく必要があると考えています。

つまり、グループ社員が一丸となって効率的かつ創造的に能力を発揮してこそ、様々な施策が実行され、業績という成果を収めることができるのであり、そのためには、社員が能力をフルに発揮できるような仕組みを整備する必要があるということです。

その考えに基づき当社では必要な改革を着々と進めています。具体的には、各人が持つてい

る力を最大限発揮できる人事制度の導入、将来を担う人材を積極的に育てる人材育成機能の充実、女性社員の更なる活躍推進や、ワーク・ライフ・バランスの充実、また事業のグローバル化に対応できるような多様な人材の活躍推進などの施策です。

今年は、日本経済新聞社の「働きやすい会社ランキング」や東洋経済新報社の「理系の就職したい会社ランキング」などでも高い評価をいただきましたが、これは当社がこれまで行ってきた諸施策の中で、人材マネジメントについても評価された結果と考えています。

今後も、現状に満足することなく、事業の競争優位を支えるコア技術の発展に貢献できる新たな人材の確保、育成にも引き続き注力し、人材マネジメントを更に進めています。



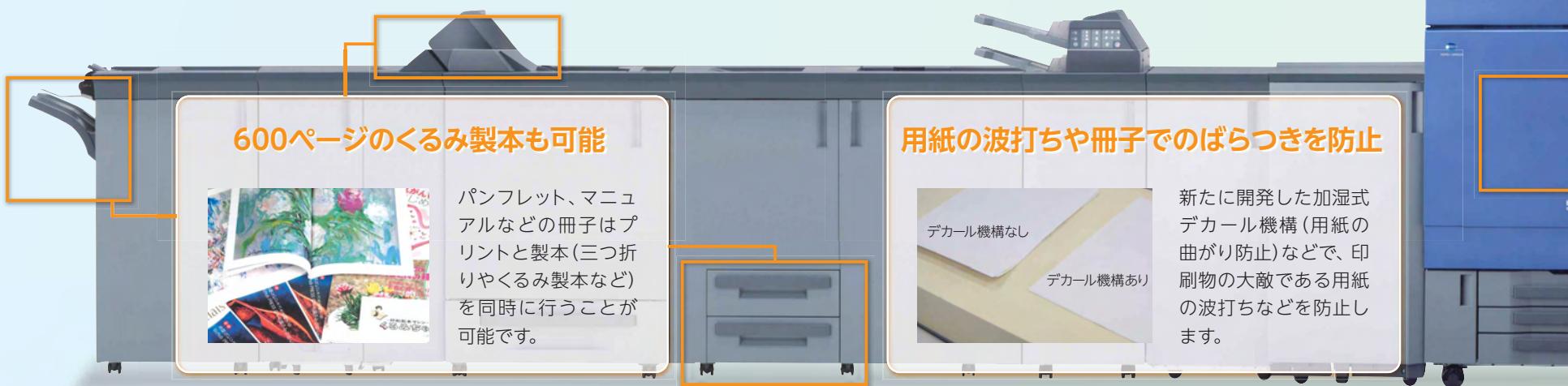
「強い成長」のために

—情報機器事業の事業領域を拡大・深耕—

コニカミノルタは、いつの時代にも高い収益をあげられる事業の柱を持つことが重要と考え、「既存事業強化」「既存事業の業容拡大」「新規事業育成」の3つの成長戦略を推進しています。

ここでは、大きな成長が期待できる市場でコア技術など当社の強みを活かして事業を伸ばす「既存事業の業容拡大」の中から、情報機器事業セグメントのプロダクションプリント事業をご紹介します。

事業領域に応じたブランド展開



新たな事業機会の創出

印刷市場では、販促物やカタログ印刷、ダイレクトメール(DM)などの分野で、小ロット多品種印刷のニーズが高まっています。その結果、大量印刷が得意なアナログのオフセット印刷から小回りの利くデジタル印刷への移行が進んでおり、今後はカラー・デジタル印刷市場が急速に拡大するものと予測されます。

当社のプロダクションプリント事業は、この劇的な市場変化を新たな事業機会の好機と捉え、事業成長に結び付けるために、①高出力ボ

リューム領域への品揃えの拡大、②商業印刷／カラー分野へのシフト、③それらを達成するための開発・販売体制の強化、という施策を推進し、着実に売上を伸ばしていきます。

この事業戦略の一環として、当社製品の中で最上位カテゴリーに位置する新ブランド「bizhub PRESS(ビズハブ プレス)」を立ち上げ、9月にはオフセット並みの高画質と、高生産性・高耐久性を両立させた次世代のカラー・デジタル印刷システム

「bizhub PRESS C8000」を発売、10月にはライトプロダクション領域においても「bizhub PRESS C6000/C7000」の発売を開始し、業界随一の商品ラインアップを取り揃えました。加えて、メディアル&グラフィック事業の印刷部門を情報機器事業に統合するグループ内再編を行い、体制強化を図りました。これらにより今後は、プロダクションプリント事業を拡大し、将来の情報機器事業におけるコア事業に成長させたいと考えています。



最初の1枚から最後の1枚まで 変わらない印刷品質



センサーが濃度バランスの変化を検知し、印刷中に画像安定化を行うことで、最後の1枚まで安定した印刷を実現します。

英国の国際展示会では来場者に当社製品の競争優位性を強く印象付けることができました



コニカミノルタビジネスソリューションズヨーロッパ
インターナショナルマーケティングコミュニケーションズ
マネージャー

カトリン マレス

COMMENT

IPEX*では「bizhub PRESS C8000」が非常に大きな反響を呼び、たくさんの来場者の注目を集めました。同時に当社プロダクションプリント機の製品ラインにおける多様性、競争優位性を深く印象付ける良い機会となりました。

* IPEX：国際印刷産業展示会（世界4大印刷機材展の一つ：米/PRINT 英/IPEX 独/DRUPA 日/IGAS）



事業概況

情報機器事業

オプト事業

メディカル＆グラフィック事業

8

株主通信
2010年
秋号



業績の概要

オフィス分野: MFPでは、「bizhub (bizhub)」シリーズのカラー機及びモノクロ機の販売が、国内外の主要市場において好調に推移し、販売台数は前年同期を大きく上回りました。また新興国市場専用機も、中国市場を中心にシェア拡大に寄与しました。

プロダクションプリント分野: これまで販売してきた「bizhub PRO (bizhub PRO)」シリーズに加え、デジタル商業印刷での本格展開を目指し、新ブランド「bizhub PRESS (bizhub PRESS)」を立ち上げました。そして、新たにその最上位機種となる「bizhub PRESS C8000」を発売しました。

ディスプレイ部材分野: 夏以降、液晶パネルメーカー各社の生産調整の影響を受ける中、VA-TACフィルム(視野角拡大フィルム)の販売数量は前年同期を下回りましたが、当社が強みを持つ薄膜タイプ、超広幅のTACフィルムが牽引し、全体の販売数量は前年同期を上回りました。

メモリー分野: 光ピックアップレンズは、販売数量は前年同期比で増加しましたが、パソコン向けやゲーム機向けなど顧客先での生産調整の影響を受け、期待ほどの伸びとはなりませんでした。ガラス製ハードディスク基板は高記録密度製品が堅調に推移し、販売数量も前年同期比で、大幅に伸長しました。

画像入出力コンポーネント分野: 最終市場での市況に減速感が見られ、総じて低調に推移しました。

ヘルスケア分野: デジタルX線画像診断領域では、デジタル入力機器・システムやサービスソリューションビジネスの販売拡大に注力しました。デジタル入力機器の販売台数は、小規模医療施設向けの小型CR「REGIUS (レジウス) MODEL 110」が牽引し、国内外市場とも前年同期を上回りました。

印刷分野: 市況低迷の中で投資マインドの冷え込みが続き、市場環境が厳しい中、オンデマンドデジタル印刷機などの販売拡大に取り組み、販売台数は前年同期を上回りました。

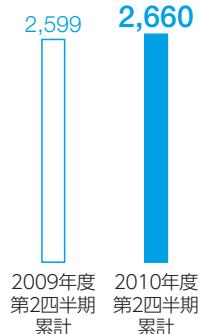
売上高構成比

売上高(億円)

営業利益(億円)

主要製品

使われているコア技術



195

- オフィス用MFP
- レーザープリンター
- プロダクションプリンティング機

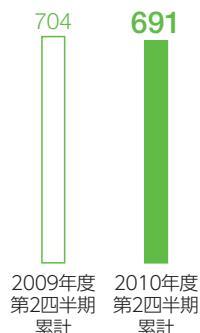
機器:

画像処理、プロセス、搬送

トナー・感光体:

機能性有機材料合成、

機能性有機材料設計、機能性微粒子形成



79

- TACフィルム(液晶偏光板用保護フィルム)
- 光ディスク用ピックアップレンズ
- HDD用ガラス基板
- マイクロカメラモジュール

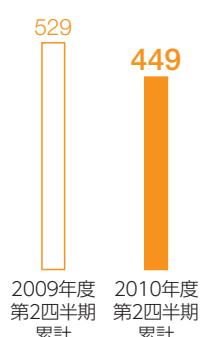
TACフィルム:

機能性有機材料設計、機能性微粒子形成、
製膜コーティング

光学コンポーネント:

成型、表面加工、光学設計、精密駆動
HDD用ガラス基板:
表面加工

9

株主通信
2010年
秋号

17

- デジタルX線画像読み取り装置
- 乳房X線撮影装置
- 画像診断ワークステーション
- デジタル色校正システム
- オンデマンド印刷システム

医療機器:

機能性微粒子形成、
製膜コーティング(CRシンチレータ)、
画像処理

※ 第2四半期累計期間: 4月～9月

CSR(企業の社会的責任)の取り組み

コニカミノルタでは、販売する製品・サービスに限らず、事業活動全般にわたって社会的責任を果たし、お客様をはじめ社会から信頼される企業グループを目指しています。この考えに基づき、当社はCSR活動を推進してきました。

今回は、グループ生産拠点及びお取引先でのCSR活動である「CSR調達」についてご紹介します。

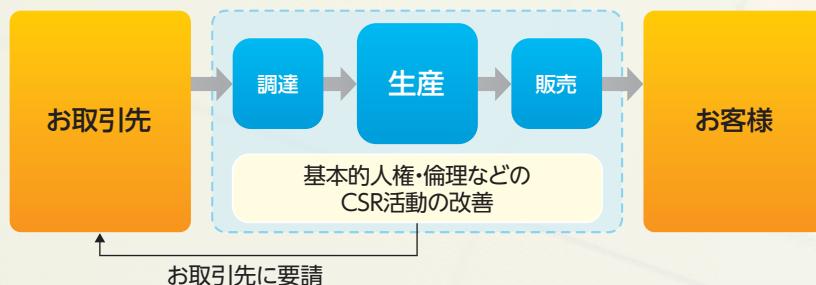


生産拠点からお取引先へのCSR活動の展開

CSR調達とは、CSR活動をグループ生産拠点だけでなく、原材料・部品などを調達するお取引先に拡大する活動を指します。これまでの調達活動では、お取引先と、調達品の品質の向上などに努めてきました。

CSR調達では、今までの活動に加えて、グループ生産拠点及びお取引先の基本的人権・倫理・環境・安全衛生などのCSR活動の改善に取り組みます。

CSR調達の概念図



お取引先のCSR活動の改善に共に取り組む

なぜ今、CSR調達が必要とされているのでしょうか。企業には、省エネ、省資源、化学物質管理などの社会的な課題に対して、事業活動、製品・サービスの提供による貢献が不可欠になっています。そして、CSR活動の範囲をグループ内からグループ外に拡大し、貢献することも重要になっています。

コニカミノルタでは、グループ生産拠点及びお取引先へのCSR活動を推進するために、調達活動全般についての方針とお取引先への要請事項を明確にしました。更に、CSR調達の対象分野と到達目標を設定し、その推進状況・改善点を共有化するための診断法を構築しました。

2009年度に、グループ36生産拠点に対して診断を実施し、改善を行いました。お取引先に対してはCSR活動への協力をお願いし、2009年度から3年計画で診断と改善を進めています。これまで培ったパートナーシップのもと、力を合わせて改善に取り組んでいます。

2010年度のトピックス (4月~9月)

社会的責任投資(SRI)銘柄として、各方面で高い評価

6月に、世界の代表的なSRI評価会社、SAM社のCSR格付で「シルバークラス」に選定されたほか、9月には「Dow Jones Sustainability Index」のアジア・太平洋版の構成銘柄に2年連続で採用。更に、英国の「FTSE4Good Global」インデックスや日本の「モーニングスター社会的責任投資株価指数」の構成銘柄にも組み込まれています。



6月、9月

大型液晶テレビの需要増に対応し、TACフィルムの第7工場が本格稼働

液晶偏光板用保護フィルム「TACフィルム」及び視野角拡大フィルム「VA-TACフィルム」の第7工場が完成し、本格稼働を開始しました。



7月

4

5

6

7

8

9

2010

新製品

新興国市場向け
デジタルモノクロ複合機
[bizhub 184/164] (5月)



デジタルモノクロ複合機
[bizhub 423/363/283/223] (5月)



小型迅速生化学検査装置
「コレステック LDX KM」(6月)



デジタル印刷システム「bizhub PRESS C8000」(9月)

色彩照度計「CL-200A」(8月)

6月、7月

新興国市場における拡大を目指してインドに販売会社を相次いで設立
経済成長の著しいインド市場の開拓を目指し、複合機などの情報機器を取り扱う販売会社と、デジタル画像診断システムなどヘルスケア関連製品を取り扱う販売会社を相次いで設立しました。地域特性に即した販売戦略を行うことで、新興国における事業成長を図ります。

9月



第43回 日本女子プロゴルフ選手権大会
コニカミノルタ杯

当社が特別協賛する「日本女子プロゴルフ選手権大会」が、奈良県のグランデジゴルフ倶楽部で開催され、藤田幸希選手がメジャータイトルでの初優勝を飾りました。

11

株主通信
2010年
秋号

財務ハイライト

売上高

売上高は、ほぼ前年同期並みの3,918億円となりました。これはUSドル、ユーロともに円高が急激に進み為替換算でマイナスの影響約262億円が発生したことによるものです。この円高の要因を除いた売上高の伸びでは、約247億円の増収となります。

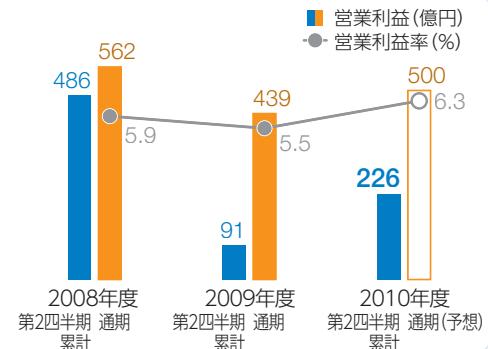


12

株主通信
2010年
秋号

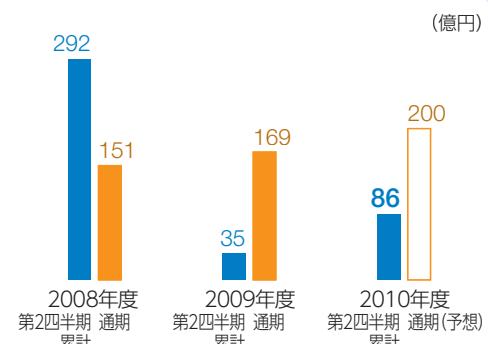
営業利益

営業利益は、売上高同様、円高による為替換算のマイナス影響を受けたものの、前年同期比2.5倍の226億円と大幅に増益となりました。これは情報機器事業のオフィス用MFP分野において、高付加価値かつコスト低減による採算性の高い新製品の販売が好調であったことにより、売上総利益を押し上げたことが、最大の要因です。



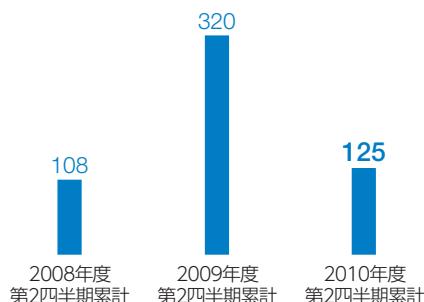
四半期純利益

四半期純利益は、前年同期比2.4倍の86億円となりました。円高影響による為替差損や、米国のCTP(印刷用プレート)事業の売却に伴う構造改善費用などの特別損失の計上がありましたが、営業利益の大幅な増加で、これらのマイナスをカバーしました。



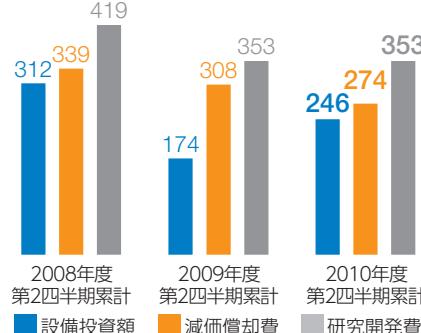
※ 第2四半期累計期間：4月～9月

フリー・キャッシュ・フロー(億円)



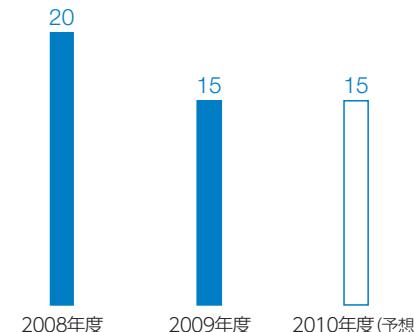
・前年同期比195億円減の125億円でした。これは、営業キャッシュ・フローが、退職引当金減少やたな卸資産増加などにより222億円減ったことによるものです。

設備投資額／減価償却費／研究開発費(億円)



- ・情報機器事業の新製品のための金型投資や戦略事業と位置付けるオプト事業での生産能力増強を行い、前年同期を上回る設備投資となりました。

1株あたり配当金(円)



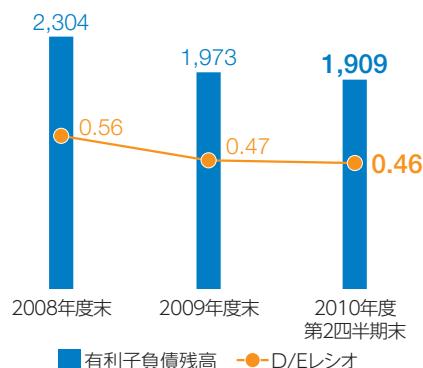
- ・株主の皆様へ継続的に利益還元することを基本にしており、当初の予定どおり、年間配当15円を計画しています。

自己資本(億円)／自己資本比率(%)



- ・四半期純利益の計上などで利益剰余金が増加する一方、円高の影響で為替換算調整勘定のマイナスが増加し、自己資本は僅かながら減少しました。
- ※自己資本=期末株主資本+評価換算差額合計
※自己資本比率=自己資本/期末総資産

有利子負債残高(億円)／D/Eレシオ(倍)



- ・主に短期借入金を返済したことで、期末の有利子負債残高は64億円減少し、1,909億円となりました。
- ※D/Eレシオ=期末有利子負債/自己資本

たな卸資産(億円)／たな卸資産回転日数



- ・在庫が圧縮されていた前年度末から、下半期以降の新製品販売拡大に向けて積み増した結果、たな卸資産は75億円増加し、1,057億円となりました。
- ※たな卸資産回転日数=期末たな卸資産/1日あたり売上高(累計)

会社概要

(2010年9月30日現在)

商号	コニカミノルタホールディングス株式会社
証券コード	4902(東証・大証第一部)
ホームページ	http://konicaminolta.jp
創業	1873年(明治6年)
株式会社の設立	1936年(昭和11年)
資本金	37,519百万円
従業員数	213名(グループ従業員数 36,703名)
本社	〒100-0005 東京都千代田区丸の内1-6-1 丸の内センタービルディング
関西支社	〒550-0005 大阪府大阪市西区西本町2-3-10 西本町インテス
主なグループ会社	コニカミノルタビジネステクノロジーズ株式会社 コニカミノルタオプト株式会社 コニカミノルタエムジー株式会社 コニカミノルタセンシング株式会社 コニカミノルタテクノロジーセンター株式会社 コニカミノルタビジネスエキスパート株式会社 コニカミノルタIJ株式会社 コニカミノルタプラネタリウム株式会社



当社製カレンダーの贈呈
国内の個人株主の皆様*に
当社製カレンダーを12月にお送りします。
*毎年9月30日時点で500株以上お持ちの
国内の個人株主の皆様が対象になります。

役員 (2010年6月30日現在)

取締役

太田 義勝 取締役会議長
松崎 正年
並木 忠男
辻 亨
出原 洋三
伊藤 伸彦
城野 宜臣
松本 泰男
山名 昌衛
木谷 彰男
安藤 吉昭

注1：取締役 並木忠男、辻亨、出原洋三、伊藤伸彦の4氏は、会社法第2条第15号に定める社外取締役であり、株式会社東京証券取引所有価証券上場規程第436条の2に定める独立役員です。

注2：取締役 松崎正年、山名昌衛、木谷彰男、安藤吉昭の4氏は、執行役を兼務しています。

執行役

代表執行役社長	常務執行役	執行役
松崎 正年	山名 昌衛 染谷 義彦 松丸 隆 木谷 彰男 谷田 清文 杉山 高司 安藤 吉昭 亀井 勝 児玉 篤	岡村 秀樹 秋山 正巳 家氏 信康 唐崎 敏彦 井上 宏之 駒村 大和良 秦 和義 穂垣 博文 大野 彰得 白木 善紹

株式の状況 (2010年9月30日現在)

発行可能株式総数 1,200,000,000株
発行済株式の総数 531,664,337株
株主数 28,100名

大株主(上位10名)

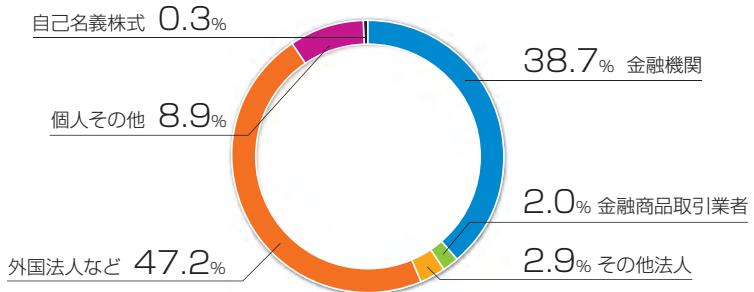
株主名	持株数(千株)	持株比率(%)*
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	33,221	6.3
日本マスター・トラスト信託銀行株式会社(信託口)	24,542	4.6
ステート・ストリート・バンク・アンド・トラスト・カンパニー 505223	20,527	3.9
ザ・チェース・マンハッタン・バンク・エヌエイ・ロンドン	18,474	3.5
エス・エル・オムニバス・アカウント		
ジェーピー・モルガン・チェース・バンク 380055	18,160	3.4
株式会社三菱東京UFJ銀行	15,494	2.9
日本生命保険相互会社	12,009	2.3
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 (中央三井アセット信託銀行再信託分・ 株式会社三井住友銀行退職給付信託口)	11,875	2.2
野村信託銀行株式会社 (退職給付信託三菱東京UFJ銀行口)	10,801	2.0
ステート・ストリート・バンク・アンド・トラスト・カンパニー 505225	10,357	2.0

*持株比率は自己株式(1,424,727株)を控除して計算しています。

株主メモ

事業年度 4月1日～翌年3月31日
配当基準日 3月31日若しくは9月30日又はその他決定された基準日
定期株主総会 毎年6月
株主名簿管理人 三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先・郵送先 〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号
三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
電話 0120-232-711(平日 9:00～17:00) 通話料無料
電子公告 (<http://konicaminolta.jp>)
ただし、事故その他やむを得ない事由により電子公告による公告
ができない場合、東京都において発行する日本経済新聞に掲載。

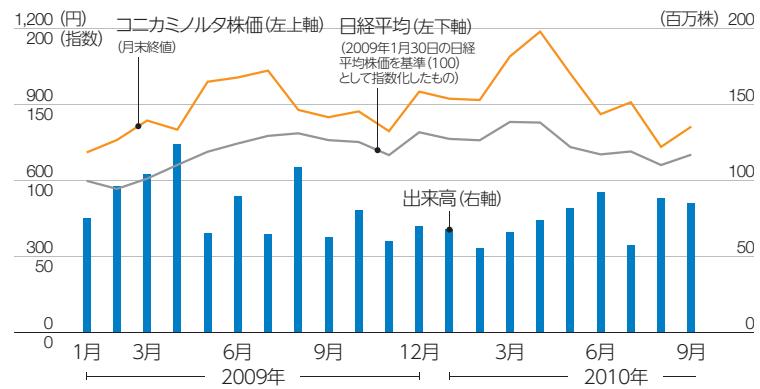
所有者別株式分布状況



15

株主通信
2010年
秋号

株価と出来高推移(東京証券取引所)





「タンチョウチャリティ企画」に協賛

当社は、特別天然記念物のタンチョウとその生息地の自然を守るため、財団法人日本野鳥の会の「タンチョウチャリティ企画」に協賛しています。

2010年度は、片岡鶴太郎さんにタンチョウをテーマに描いていただいた作品をもとに、チャリティグッズの製作を進めています。

(2010年12月寄付受付開始予定)



芸術家
片岡鶴太郎 氏

「丹頂鶴の美しい姿、生態を映像で見て、深い感銘を受けました」

今回、改めて丹頂鶴の美しい姿、生態を映像で見て、深い感銘を受けました。実際にその姿を肉眼で一度でも見たなら誰もが虜になるでしょう。私も一度、この目で触れてみたいと思っています。

私の名前には鶴の字が入っています。いつか、丹頂鶴を描いてみたいと思いつつも、なかなか筆が動きませんでした。この度、この企画を頂き、心からの想いを込めて美しい丹頂鶴を描くことができましたことを感謝申し上げます。



前列中央: 松崎社長、後列左端: 酒井監督

通算7回目の栄冠を目指し、 お正月の上州路を駆け抜けます。

駅伝最高峰の大会である第55回全日本実業団対抗駅伝(ニューイヤー駅伝)が、来年1月1日に群馬県を舞台に開催されます。コニカミノルタ陸上競技部は、酒井勝充監督、山田紘之新キャプテンのもと、新加入の外国人選手2名も含めた部員全員が、通算7回目の栄冠を目指して、日夜奮闘しています。皆様におかれましても温かいご声援を宜しくお願いします。

2011年1月1日(土・祝 9:05スタート TBS系列で放送予定)

コニカミノルタ ホールディングス株式会社

〒100-0005
東京都千代田区丸の内1-6-1
丸の内センタービルディング
法務総務部 TEL:03-6250-2000
広報・ブランド推進部 TEL:03-6250-2100

<http://konicaminolta.jp/>



KONICA MINOLTA

この株主通信に記載されている当社の現在の計画・戦略及び将来の業績見通しは、現在入手可能な情報に基づき、当社が現時点で合理的であると判断したものであり、リスクや不確実性を含んでいます。
実際の業績は様々な要素によりこの株主通信の内容とは異なる可能性のあることをご承知ください。

(2010年11月発行)

単元(500株)未満株式の買い取り・買い増し制度をご活用ください

手続き用紙請求先(24時間対応):

☎ 0120-244-479 ※通話料無料(三菱UFJ信託銀行 証券代行部)

インターネットアドレス: <http://www.tr.mufg.jp/daikou/>

・証券会社にお取引口座をお持ちの株主様は、証券会社にご相談ください。



一般社団法人 日本IR協議会
「2010年度 IR優良企業賞」受賞



地球環境にやさしいFSC認証紙と植物油インキを使用しています。

